OG/OB と学生を結びながら、懐かしさと新しさ香る筑波の風を季節の便りとしてお届けしていきます。

INDEX

1. 外国語センターのテープライブラリー大変身！ / 加藤緑
CEGLOC メディアライブラリーを訪問しました

2. 私と「ペデじゃーなる」/ 天野隼太
3 年間の振り返り

3.「過去」の積み重ねが「今」をつくる / 川上真生
～雑誌「JAMJAM」を回顧して～

4. 大学 4 年次の就活、教育実習、卒論を振り返る / 山田優芽
山場にして集大成の 1 年間

5. つくばあれこれ / 野澤遼太郎

6. 筑波大学がもしも 100 人の大学だったら / 新田悠樹
縮めてイメージする学生数と収支

1. 外国語センターのテープライブラリー大変身！
CEGLOC メディアライブラリーを訪問しました

皆様あけましておめでとうございます。昨年は「ペデじゃーなる」をご愛読いただき誠にありがとうございました。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年開学 50 周年を迎えた筑波大学ですが、開学当初から国際性を重視してきたことがうかがえる施設があります。今回は「CEGLOC メディアライブラリー」について調べてみました。

CEGLOC ？メディアライブラリー？何それ？美味しいの？

そんな疑問が浮かんだ卒業生がほとんどかもしれません。別の言い方をしてみましょう。外国語センターのテープライブラリーはご存知でしょうか。その名前が変わったものが現在の CEGLOG メディアライブラリーです。

私が初めて CEGLOC メディアライブラリーを訪れたのは昨年の秋、英語検定 IELTS（アイエルツ）を 2 週間後に控えていた時でした。IELTS の参考書の値段は高く、たった 2 週間の学習で買うのはちょっと……とためらっていたところ、時々「X（旧ツイッター）」で見かける CEGLOC メディアライブラリーの投稿を思い出しました。「そこに行けば借りられるかもしれない」と、CEGLOC メディアライブラリーに駆け込み、無事 2 冊の参考書で助かりました。

CEGLOC メディアライブラリーは大学会館近くの CA 棟にあります。ところでさっきから「CEGLOC」が複数回出てきますが、これは「Center for Education of Global Communication（グローバルコミュニケーション教育センター）」の略で、「セグロック」と読みます。

図 1　5C 棟側から見た CA 棟。外国語の授業などで訪れた時のことは覚えていますか。

CEGLOC は 2015 年に開設され、その前身は 1974 年に設置された外国語センターです。2012 年入学の OG によると、外国語センターは学生の間で「ガイセン」と呼ばれていたようでした。その方が 4 年生になった時に外国語センターが CEGLOC になり、三つ下の後輩との会話で「ガイセン」と言っても通じなかったことにショックを受けたと言います。それとほぼ同時に外国語センターの付属施設だったテープライブラリーが「メディアライブラリー」という名前に変わりました。

では、テープライブラリーはどんな施設だったのでしょうか。メディアライブラリーの担当者が見せてくれた『筑波大学外国語センター概要　1978 年 3 月』によると、テープライブラリーの運営は「全学の学生および教職員が自主的な学習を行えるように、視聴覚教材の貸出し、教育機器の利用などの便を図る」ためと記されています。この文章の後に括弧書きで「利用者・月平均 950 名」とあります。当時は今ほど便利なパソコンがなく、ましてスマートフォンも登場するはるか前で、リスニングの練習や外国の映画を見たい時の手段はカセットテープやビデオテープでした。しかも、一人暮らしの学生がプレイヤーを所有していることはほとんどなく、テープライブラリーは学生がテープを使用できる唯一の場所だったと思われます。

また、当時の教員は授業でテープライブラリーの教材を使用していて、欠席した学生はテープライブラリーに行ってテープを借りて自習していたと言います。その他、ダビング機が 1 台置かれていたため、テープのダビングをするために訪れる学生も多かったようです。

メディアライブラリーに戻りましょう。中に入ると、正面にはカウンター、右に行くと学術的な英作文などの自律した書き手になるためにアドバイスをしてくれるプログラム「Academic Writing Support Desk（AWSD）」で使用するセミナー室、左に行けば本棚や自習席があります。メディアライブラリーは附属図書館のように学生証や職員証をかざして通るゲートがないため、カウンターの前に置いてあるタブレットに氏名、学籍番号、所属を自分で記入します。学生や教職員の利用がメインですが、卒業生や学外者は附属図書館で臨時入館カードを申請すれば利用することができます。開館時間は午前 10 時～午後 5 時です。

図 2　この特徴的（？）な階段、見覚えありますか。右がメディアライブラリー入口です。

図 3　中に入ると、正面にカウンターがあり、その斜め前（左側）には受付用のタブレットがあります。右側の部屋は AWSD で使用しているセミナー室です。

図 4　参考書や自習席があり、Wi-Fi も完備されています。

館内には韓国語、中国語、ロシア語などさまざまな語学学習用の参考書などが 3135 冊、「ハリー・ポッター」や「スターウォーズ」などの映画 DVD・Blu-ray が 1170 枚あります。開放型の自習席は 5 席、ブース型で DVD、CD それぞれのプレイヤーがついている自習席は 10 席ずつ、計 20 席あります。2021 年 5 月から、辞書と DVD・Blu-ray 以外の資料は 2 週間の貸出が可能となり、1 回の貸出期間の延長ができます。また、利用者は参考書の要望に加え、付属図書館ではできない映像資料のリクエストも可能です。

図 5　本棚には映画の DVD・Blu-ray がたくさん並べられています。
この写真から開放型自習席が 4 席見えます。

図 6　DVD と CD プレイヤーが交互に置かれているブース型自習席です。
イヤホンを持参すれば自由に使えます。

図 7　より大きな画面で映画を見たい学生はこのテレビを利用します。
無線イヤホンで接続できるため、テレビとの距離は気にすることなく映画を楽しめます。

図 8　さまざまな言語の検定試験対策の参考書が置かれていて、貸出しができます。
筆者も参考書を借りたことがあります。

こんなにも広くて使い心地よくて、設備も充実しているところですが、学生の間での知名度が低く、利用者は少ないです。昨年度は利用者数が多い月で約 270 人、少ない月だと 50 人程度でした。その背景には改修工事とコロナ禍がありました。

2019 年 7 月から CA 棟で耐震工事が行われたことに伴い、メディアライブラリーや外国語の授業で使用する CA 棟の教室は使えなくなりました。工事が終わったのは 2020 年 3 月、ちょうどコロナ禍で入構が禁止された時期です。学生は自然と CA 棟に行く機会がなくなり、メディアライブラリーの存在を知る術が少なくなりました。私の学年（２年生）まで、外国語の授業がオンラインだったため、今の２年生～大学院１年生はメディアライブラリーを「授業に行くついでに」知る機会がありませんでした。

しかし、今年度から外国語の授業が CA 棟で行われることになり、授業前後に訪れる学生がいるとメディアライブラリーの担当者は言います。また、メディアライブラリー側は SNS で新着書籍や DVD・Blu-ray の発信を行っていて、より広く学生に知ってもらえるように取り組んでいます。

毎日留学生を見かけ、国際交流イベントが多数開催されているなど、「筑波大学は本当に国際色豊かだな」と常々思います。それに加え、大学には CEGLOC メディアライブラリーのような語学学習を推進する施設があることもその本気度の表れではないでしょうか。学生の皆さんはもちろん、メディアライブラリーの担当者もお話しされていたように、語学学習に興味がある方にはどんどんメディアライブラリーを利用してほしいですね。

＊館内の写真は CEGLOC メディアライブラリーの担当者の許可を得て、１月 30 日に筆者が撮影しました。

（生命環境学群　生物学類２年　加藤緑）

追伸：

資料返却ポスト（右の写真）が２月８日に設置されました。メディアライブラリーの開館時間は附属図書館より短く、授業などの関係で開館時間内に資料の返却ができない利用者のために、閉館時にポストへの投函が可能となりました。

2. 私と「ペデじゃーなる」
3 年間の振り返り

みなさんこんにちは。外は寒いですね。私は、分厚い上着をはおり、マフラー（時よりネックウォーマー）を身に付け、手袋をはめて外出します。まるでフルアーマー ZZ ガンダム（重武装した ZZ ガンダム）のようです。しかし、自転車を漕いでいると段々と熱くなり、目的地に到達するころにはマフラーも手袋も自転車のかごの中……。その調節は非常に難しいですね。

ではその「目的地」とはどこか。卒業論文の口頭試問が終わり大学にほとんど行っていない今、それはバイト先であります。私は「カスミ」ではない大型スーパーで働いており、商品の陳列やレジ打ちなどをしています。店内では、至る所から音が聞こえてきます。お客さんの声や店内放送、インカムの業務連絡や新商品のプロモーションＣＭなど、多種多様です。その中で一つ、冬になると聞こえてくる「音」があります。みなさん、なんだと思いますか？

ヒントはお酒です。ビールです。オールナイトニッポンです。そう、正解はサントリーの「金麦」です。店内では、「冬です。鍋です。金麦は冬の味です」と繰り返しＣＭが流れるのですが、私はそれを聞いてもう、鍋が食べたくてしかたなくなります。「トントン」とネギを切る音や、「グツグツ」具材を煮込む音。それらは、私の心を「鍋の世界」に誘います。お酒はそこまで飲めないので、水にしておきましょう。

鍋は、具材を切ってぶち込むだけなので、とっても楽ですよね。あと安い！みなさんも学生時代、鍋に助けられた方もいらっしゃるのではないですか。鍋は、冬に食べると身体が芯まで温まり、なんとまぁ～幸せな気持ちになりますな。私も昨日、担々ごま鍋を食べました。そんな話をしてると腹がへってきてしまうので、鍋の話はこのくらいにしておきます。一度作った鍋を再加熱して、グツグツ煮えて来るぐらいまでの時間で読める文章量にしましたので、鍋を作っているそこの筑波大生、OB・OG の方々、暇つぶしにでも読んでください。

今回のテーマは「振り返り」です。実は私、今年３月で卒業するので、「ペデじゃーなる」の執筆はこれが最後です。私の記事を毎度楽しみにしてくださっていたみなさん（1 人くらいはいてほしい……）、突然のご報告となりすみません。そこで今号は、今まで私が書いてきた記事を振り返っていきたいと思います！！

私が「ペデじゃーなる」編集委員（記事を書く人）になったのは、２年生の春です。1 年生も終わりに差し掛かった 2021 年 1 月、当時 4 年生だった先輩がグループ LINE で執筆者を募集しており、それに応募しました。志望動機は「とりあえずやってみよう」と思ったから。自由に「ゆるふわ」っとした文章を綴ってみたいと思っていたのもあります。当時、筑波大学新聞の記者をしていましたが、新聞ってある程度書き方に縛りがあるんですよね。それは、良いことでもあります。全員が全員、違う書きっぷりをしてしまうと、まとまりがなく、読みにくいわけでして、書き方の「型」というものがあります。編集代表の先生にその話を聞き、「なるほど！」と思った記憶があります。一方、その「型」に縛られずに書いてみたいっ！という欲があったのです。

でも、完全に新聞の書き方から脱せられたわけではありません。新聞って、「たくさんの情報を、簡潔に分かりやすく伝えること」に特化しているように思います。難しい記事でも、「なるほど！」と思える分かりやすさがありますよね。「重要なことから先に書くこと」の大切さを学びました。また、記事によっても事件事故の記事や連載記事、ルポ記事で書き方が違いますよね。例えば、連載記事で情景描写から入るものを見かけます。どれもそれぞれの「型」があり、それぞれの記事の内容をどうしたら分かりやすく伝えられるかを追求する中で生まれた「型」なんだと思っています。私は、「ペデじゃーなる」と並行して大学新聞に 4 年間籍を置きましたが、いろんな「型」に触れることができました。もちろん、だからといって上手な文章を書けるようになったのかと言われると、そんな自信はありません。しかし「ペデじゃーなる」を執筆する上で、土台となっているのは確かです。高校まで、「お前の文章は分かりにくい」と言われ、「書くこと」が嫌いでした。ですが、大学新聞で一定のトレーニングをしたおかげで、上手下手は別として、今は嫌いではなくなりました（好きとまでは……）。高校時代の私の文章は、読み手の視点が欠落していた気がします。「自分が納得する文章」も大切ですが、それに加えて「どう書けば相手が読みやすいか」を常に考えながら執筆する必要があるということを、大学 4 年間で学んだ気がします。

少しつまらない話が続いてしまいましたが、やっと本題に入っていきたいと思います（もっとつまらないかも）。まず、今まで執筆してきたものを一覧化して下に並べてみました【表 1 】。気になったタイトルが一つでもあれば、ぜひ読んでみてください。ペデじゃーなるのサイトから閲覧することができます（https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/alumni/pedeja/）。

【表 1 】天野の執筆一覧

発行年	季節	タイトル
2021	春	『『一の矢コート』改修プロジェクト始まる』～筑波大学硬式テニス愛好会 FOREST がクラウドファンディング実施～
2021	夏	『お気に入りの場所』～春日 4 丁目の田んぼを訪ねて～
2021	秋	お休み
2022	冬	『筑波大学雪景色』～雪の構内を散策～
2022	春	『当たり前のことなんてない !?』～大学生活で感じたこと～
2022	夏	『子どもたちと SDGs を学ぶ』～県南生涯学習センターでイベント実施～
2022	秋	お休み
2023	冬	『筑波落研の会長、代わります。』～代替わり寄席開催！～
2023	春	『看板が語る昔の筑波大』～今も残る「ナンバー学群」～
2023	夏	『看板が語る筑波大～第 2 弾～』～「桐の葉」の疑問、調べました。～
2023	秋	『筑波大学メッセージソングと私』～「IMAGINE THE FUTURE ～未来を想え」への思いを語ります。～
2024	冬	『私と「ペデじゃーなる」』～ 3 年間の振り返り～ ← 今ここ！

振り返ってみると、3年間で9本書いていました。意外にたくさん書いていたんだなという感じです。これら9本を分類すると、4種類のパターンに分けられます。一つ目が散歩・散策系です。2021年の夏号・冬号が該当しますね。続いて二つ目が課外活動系です。私は先述した大学新聞の他に、落語研究会、SDGsを子供たちに広げるボランティアに所属していました。大学新聞に掲載しきれなかったこぼれ話や、イベント実施の感想などを綴っています(2022年、春・夏・冬)。そして三つ目が、昨年の春・夏に2号連続で書いた「看板が語る昔の筑波大」シリーズです。その他、取材依頼をいただき執筆したもの（2021春号）や筑波大メッセージソングへの愛を語ったもの（2023年秋号）などがあります。2023年秋号については、読んでいただいた方から「メッセージソング信者か！」と笑われましたが、それだけ私の「愛」が伝わったならOKです。

9本のうち、私が特に印象に残っているのは、二つあります。一つ目は、2021年夏号の「『お気に入りの場所』～春日4丁目の田んぼを訪ねて～」です。内容を一言で表すと、「コロナ禍ですさんだ心を、春日4丁目の田んぼが励ましてくれた」というお話です。どうしてこれが印象に残っているのか。それはやっぱり、コロナ禍最初の年だったからということが大きい気がします。今でこそコロナは下火になっている気がしますが、流行り出しの2020年はすごかったですよね。テレビや新聞では連日感染者増加のニュースが流れ、町ではマスクが品切れになり、なんでもかんでも「自粛！」「中止！」の嵐でした。それは、私の大学生活にも多大なる影響を及ぼします。記事にも書きましたが、入学式・新歓イベント・文化祭などのイベントは軒並み中止され、大学は入構禁止、授業は全てオンラインで、出席確認を兼ねた課題が山のように出される日々でした。つくばに到着した日に「1年生はまだつくばに来ないように」とのお達しが出され、感染リスクから帰省を控えてほしいと親に言われた私は、事実上、つくばという町に閉じ込められたのです（笑)。友達ができず、サークルにも入れず、それなのに土曜授業（注）もあって、当然メンタルは蝕まれているわけですよ。「私のキャンパスライフって一体……」と思い始め、「つくば」が嫌になってきた時、出会ったのがアパート裏の田んぼから見る夕日でした。「きれいな夕日！」と衝動的に家を出た記憶があります。「つくばにもこんな心落ちつく場所があったんだな」と思えた瞬間でした。今でもたまに出かけています。大学4年間、いろいろなことがありましたが、やっぱりコロナ禍真っ只中だった2020年は、大学1年生の新生活だったこともあり、強烈に印象に残ってますね。

そして二つ目が、2023年夏号の「『看板が語る筑波大～第二弾～』～桐の葉の疑問、調べました。～」です。これは、去年執筆した記事なのでよく覚えています。内容を、YouTubeのサムネイルのように表すと「看板に描かれた筑波大学校章の違いを調べてみた」ですね。調査結果はぜひ記事を読んでいただければと思います。この回は、調査が大変でした。夏真っ盛りの8月5日、校章が掲載されている看板をくまなく探すため、自転車で大学構内をぐるぐるしました。北は「一の矢学生宿舎」、南は「春日エリア」という縦に長いコースです。汗で背中がじわじわと濡れてきているのを感じながら、日が傾きだした夕方のつくばを走り、看板を見つけ次第、自転車から降りて写真を撮ります。外は暑いのに、周りからの視線はま～ぁ冷たいこと！そんなニトリの「Nウォーム」のCMみたいなネタはいいとして、とにかく「看板」から考えてみるって面白いなと感じた号でした。

ここで今、私が注目している看板をご紹介します。それは「筑波学院大学」の看板です。同大は、今年 4 月より「日本国際学園大学」に名称が変更されます。それに伴い、看板が着々と「筑波学院大学」から「日本国際学園大学」へと変わっていくわけですが、まだ「筑波学院大学」のままのものもあります。筑波大には「ナンバー学群」の看板がまだ残っていますから、「筑波学院大学」の看板も奇跡的に残るかもしれませんね。数年後、あるいは数十年後、未来の筑波大生がそれを見つけて「この看板はなんだろう？」となった時、「ほっほっほ。そこの筑波大生よ。貴君が気になっている看板について、わしと語ろうぞ」と話しかける時が来るかもしれません（絶対話しかけられたくない）。

そろそろ鍋がグツグツし始めたころだと思うので、振り返りもこのくらいにしておきます。あらためまして、3 年間ありがとうございました。自由に、好き勝手書けて、本当に楽しかったです。これまでは、執筆者だったわけですが、これからは読者の皆さんと同じ、筑波大卒業生として、外から見守る存在になります。私ができたのかと言われると分かりませんが、「ペデじゃーなる」が今後も、在学生と卒業生をつなぐメールマガジンであることを、心より祈っております。

では冷めないうちに、お鍋をどうぞ。

（注）土曜授業

2020 年の春学期は、土曜日にも授業がありました。東京五輪・パラリンピックの開催に対応するためです。筑波大は、同大会への学生ボランティアの参加などを想定し、開催期間中に授業や試験を原則行わないことを決定していました（19 年 7 月）。それによる不足時間を補うための措置として、土曜授業が実施されました。みなさんも知っての通り、大会は 21 年に延期されました。ですが、コロナの影響で春学期の授業開始が遅れたため、結果的には効果があったのかもしれませんね。

（参考：「五輪で土曜授業 2 学類実施せず」『筑波大学新聞』354 号、2020 年 1 月 27 日付。）

（人文・文化学群　比較文化学類 4 年　天野隼太）

3.「過去」の積み重ねが「今」をつくる
～雑誌「JAMJAM」を回顧して～

昨年 10 月、読者の皆さまもご存知のとおり筑波大学は開学 50 周年・創基 151 年を迎えました。私が所属している筑波大学新聞では、50 周年に合わせて読者の方に懐かしんでいただける（今の筑波大生に開学初期の筑波大学を知ってもらえる）さまざまな企画を掲載した次第です。その一つが「つくばマップ」の座談会特集でした（筑波大学新聞第 378 号 13 面）。キャンパス周辺に古くから店を構える店主の方や卒業生計９人に集まっていただき、座談会形式で学生生活の変遷に語っていただきました。

その企画がご縁となり、出会ったのが筑波大生にはお馴染みの「軽食・喫茶『CLARET』」の店主、宮下友邦さんと民子さんでした。（お店について詳しく知りたい方は筑波大学新聞第３７５号の１面をご参照ください！）

座談会の出席依頼から原稿確認に至るまで何度もお店に通いましたが、その度にさまざまな言葉を掛けてくださいました。「本屋へ行き、自分のお金で本を買いなさいよ。その方が、真剣に本を読むでしょ。将来きっと役に立つからね」「今は親の方が立場は上でも、これから衰えていく。それを忘れず、社会人になったら親御さんをいたわらないとだめだよ」。私自身、話をお聞きする度にはっと気づかされることが多く、自分の行動を見つめ直す機会にもなっています。人と濃厚な関係を築くことが難しい現代、諭してくださる方、アドバイスしてくださる方は貴重な存在です。その話しぶりにはどこか温かさも感じられ、常連だった筑波大生が「つくばの両親」と呼んでいる理由が分かる気がしました。昨秋頃までお店は休業中でしたが、営業再開後は CLARET に時々足を運んで名物の「肉天重」を頬張っています。昨年の 11 月頃、CLARET で食事をしていると、友邦さんから一冊の「JAMJAM」という雑誌を手渡されました。表紙には自転車に乗った男女の学生が描かれており、右上に「1984　NO.7」「6・20　180yen」との文字が並び、中を開けば日焼けしたページが連なっていました。友邦さんからは「記事を書く時に参考になればうれしい。良ければ譲るよ」と言われました。聞くとこの「JAMJAM」はかつて筑波大生が販売していた雑誌で、CLARET の店内に置いてあったそうです。今ではこの第７号しか残っていないとのことでした。発行日は「1984 年６月 20 日」となっており、開学から 11 年目を迎える頃に発行されたことになります。

雑誌「JAMJAM」の表紙

表紙をめくってまず、目を引いたのは「『暗い』って何？」という筑波の「暗さ」に焦点を当てた特集でした。そのリード文を以下に引用します。

数年前、ネクラというコトバが流行った。暗いったって、本当には何のことなのかよくわからないのに、この単語、いつの間にか普及してしまった。異様に明るい若人達がマスメディアを賑す昨今、暗さは社会悪であるかのように迫害され続けている。

そんな「暗さ」をちょっともて遊んでみようか。別の「暗さ」と戯れることができるかも。　　p.5

「ネクラ」とは漢字を当てはめるならば「根暗」でしょうか。ネットで「ネクラ」と検索するとたしかに 1980 年代に流行ったとありました。諸説はさまざまあるものの、Mステや「笑っていいとも！」（2014 年放送終了）などの番組で有名なタモリさんが広めたという説が有力なようです。ネクラの対義語として「ネアカ」という言葉もあるということで、今でいう「陽キャ」と「陰キャ」に近い印象を受けました。

企画の冒頭は筑波大生を対象にしたアンケート「本当に筑波は『暗い』のか？」から始まっていました。そこには「筑波大生を『暗い』と思いますか？」「どこの学類が『暗い』と思いますか？」など四つのアンケート結果が集約されており、中でも目を引いたのが「筑波大生を『暗い』と思いますか？」という質問のアンケート結果でした。結果の半分ほどを「あまり（暗いと）思わない」と「（暗いと）思わない」の合計が占め、比較的暗いと思っていない人が多いようでした。

「（暗いと）思う」派の意見として挙げられていたのが「こういう閉鎖的な所だと自然にそうなるのでは」「東京の大学との交流がほとんどない。合コンができない」などです。

一方で「（暗いと）思わない」派の意見としては「バカなことは平気でやるし、〇専は早朝や深夜に奇声を上げる」（「『騒ぐ』＝『明るい』なら筑波大生も他大学生に負けないぐらい明るい。でもそれが『筑波』という陸の孤島に流れた者のうめき声でなければいいのですが…」という注釈付き）「いろんな学類があって、いろんな出身地でオモシロイ」などが挙げられていました。

一部、特定の学群に対するツッコミも入っていましたが、昔の筑波大を色濃く反映したコメントなのではないでしょうか。今でこそ筑波大生の移動手段としてつくばエクスプレス（TX）や高速バスがメジャーとなっています。しかし、東京に出るための手段として、かつては常磐線しかなかったことを考えると、「閉鎖的」「陸の孤島」などの言葉は的を射ているように感じます。一方で、全国津々浦々から学生が集まる筑波大の特徴を踏まえたコメントもあり、出身地の違う人との交流は当時の筑波大生にとってもコミュニケーションツールになっていたことがうかがえます。

余談ではありますが、広島出身の私はつくばにやってきて、「お好み焼き＝関西風」であることに驚きを覚えました。（広島人にとっては屈辱的ですが）「『広島風の』お好み焼き」と言えばなんとか通じるのです。「風」って何だよ、なんて内心思っていましたが、今では「広島風お好み焼き」「広島焼」という表現に慣れてしまいました。全国からやってくる筑波大の特色を考えると、地元のことを詳しく知らない者同士が出会い、お国自慢に花を咲かせるという光景は筑波大の伝統なのかもしれません。

その他、「根暗なんかが気持ちイイ」と題してネクラになる方法をレクチャーするコーナーや「暗い筑波大生のおいたち」といかにネクラな筑波大生が形成されるかを分析したもの、筑

波大生がとにかく「暗い」と感じる瞬間などを挙げている記事がありました。「なるほど！」と思わず膝を打つ箇所や、ぶっ飛んだ回答や表現で笑わせる文章もあり、今ではあまり目にすることのない、学生の自由な発想が凝縮されているような気がしました。

雑誌にはネクラ企画以外にも、雙峰祭の歴史を追った「学園祭 JAM 史」、野菜や肉、果物の価格をスーパーごとに比較した企画があり「ほーっ、こんな経緯があって今に至るのか」「当時の物価は今よりは安いけど、思ったほど開きはないな」など現在と比較することで楽しむことができました。企画の詳しい説明は文章量の都合で割愛させていただきます。

雑誌を譲ってくれた友邦さんはこうおっしゃっていました。「今では PC やスマホが出回って昔と比べたら、学生生活は大きく変化している。昔の学生生活を見てみて今の学生はどう思うか。今の学生に聞いてみたい」。

この言葉には友邦さんの率直な疑問と便利になった学生生活への皮肉が混じっていると感じました。2024 年が始まり、筑波大はいよいよ開学から 51 年目に歩みを進めようとしています。「開学 100 周年の筑波大はどうなっているのだろう？」。未来の筑波大を考えるとわくわくしますが、気の弱い自分は「その時の自分はどうしているのか」、「社会は今よりも良くなっているのか」とネクラな発想にもなってしまいがちです。ただ、筑波大学新聞で 50 周年特集に取り組んだり、今回の雑誌を読んだりする中で「過去の積み重ねが『今』をつくっている」と学びました。過去を振り返り「今」の自分を省みる。便利な時代である今だからこそ、そういう姿勢が重要なのだと友邦さんが教えてくださったような気がします。筑波大 OBOG の皆さまの「今」が素晴らしい時間となるように願って、筆を置きたいと思います。

今回も、最後までお読みいただきありがとうございました。

追伸）以下、友邦さんとご相談して「JAMJAM」のページを一部掲載させていただきます。もし、関係者の方がいらっしゃいましたら、ぜひご連絡ください～！

【ページ公開①】特集「『暗い』って

【ページ公開②】特集「ステップ式

参考文献
・筑波大学新聞第 375 号 375.pdf (tsukuba.ac.jp)（閲覧日：2024 年 2 月 4 日）
・筑波大学新聞第 378 号 378.pdf (tsukuba.ac.jp)（閲覧日：2024 年 2 月 4 日）
・ネクラ - ネクラの概要 - わかりやすく解説 Weblio 辞書（閲覧日：2024 年 2 月 4 日）

（社会・国際学群　社会学類２年　川上真生）

4. 大学４年次の就活、教育実習、卒論を振り返る。
山場にして集大成の１年間

ペデじゃーなる執筆も最後になりました。ここで、自分事にはなりますが、忙しかった４年次を振り返ってみたいと思います。日記を覗き見る感覚で読んでもらえたら、それなりに楽しいかもしれません。

●モノは言いよう？就職活動（3 年春～ 4 年春）

周りが就活を始めたのに焦り、3 年春には就活準備を始めました。というと、驚く方もいらっしゃるかもしれませんが、本選考が始まった訳ではなく、企業理解のために説明会やインターンシップへの参加を始めたという意味です（あとリクルートスーツ買ったり、靴やカバン買ったり）。私達 2024 年度卒の代までは、採用を目的にしたインターンは禁止されていたものの、「インターンに参加しないと選考で不利になる」「あの会社はインターン参加者向けの早期選考で結構採ってしまうらしい」などの“ウワサ”は“常識”でした。25 年度卒の代からは、インターンを採用に直結させることが公認されたので、後輩たちはもっと大変だと思います。

満員のつくばエクスプレスに揺られて 1 時間。車社会の田舎で育った私はこのスタートからうんざりでした（つくばエクスプレスがあるだけ昔より恵まれているとは思います）。3 時間前に本社前に着いては、ブツブツと面接問答や当日の確認をするということをしていました。東京はベンチがない場所が多く、そんな時は３時間近く立ちっぱなしのこともありました。そんな自分を「無駄を厭わないほどの心配性」と気づき、自己紹介などで使っていたのですが、とある採用担当の方に「あまりそういうのを表に出さない方が良いよ」とアドバイスされました。「心配性」を封印し、代わりに「粘り強さ」を押し出すようにしました。就活で最初に覚えたのは「モノは言いよう」ってことです。

「お祈りメール（不採用メール）」、「NNT（無い内定）」、減りゆく「持ち駒（選考に残ることのできている企業）」と、就活あるあるに苦しめられました。CM などでよく見る「不採用メールを受けた就活生が、帰り道の公園でスーツのままブランコに乗って泣く」風景は大げさじゃないんだなと思いました。

会社に合わせて、興味がないことを興味があるように言ったり、自分を良く見せるために取り繕ったりする「嘘」がつらくて仕方ありませんでした。振り返ると、そういう「嘘」をついた企業には受かりませんでした（「モノは言いよう」が下手くそだったとも言えます）。結局、自分が「心配性である」ことも含め、本音ベースで話し続けていたところに終着しました。

●２番目に優れた教育実習生（4 年 5 ～ 6 月）

教育実習では母校で世界史を担当しました。「そういえば、私が高校生の時に習った先生は体育会系でおっかなかったな～」としみじみとしていたら、その先生が担当でした。

人前で 50 分も教えるというのは緊張するものです。ただ「話す」のではなく「教える」ということには、自分の発言一つ一つが生徒にとって真実になるという重みがありました。教科書に載っていることだけを言えば、レールから外れることはないけど、それじゃ私がいる意味はない。授業ってなんだろう、何を伝えるのだろう。教壇を前にして頭が真っ白になりました。

授業の前日、担当の先生から「なぜ一神教が生まれたのか授業に盛り込んでみて」と言われ、焦りました。教科書や参考書に具体的な記述はなく、私も深く考えたことがなかったのです。図書館で関連の本を読み漁りましたが、考えれば考えるほどわからなくなり、自分の知識の無さを痛感しました。「わかりませんでした！」。次の日の授業、生徒の前で正直にそう話すしかありませんでした。わからないなりの考察と、調べるのがどれだけ難しかったかを伝えるのに不思議と熱が籠もりました。

「自分が楽しまないと、授業は」。担当の先生の言葉にハッとしました。その先生の授業では、世界史を自分事と捉えられるような例えをしたり、真面目な話と冗談話を言ったり来たりして興味を引き付けていました。教科書の世界から離れていろんなことを教えてくれる背景には、日頃からの膨大な読書量があったようです。実習中もおすすめの本をたくさん紹介してもらいました。先生が教員になるまでの経験や思いも聞きました。自分も教わっていた先生が、どんな思いで授業をしていたのかという“種明かし“に、自分も生徒として大切にされていたんだな～とうれしい気持ちになりました。

最後、担当の先生には「山田は今まで知っている教育実習生の中で２番目に良かった」との言葉をいただきました。「もちろん１番は俺」、だそうです。

担当したクラスの生徒からいただいた色紙。私にはもったいないくらいの宝物です。

●自転車で書いたような卒業論文（4 年 6 ～ 1 月）

自転車でアパートから 50 分。そこが私の卒論調査地です。土浦学園線に近接する里山で、真ん中に大池があり、谷津田、雑木林、畑、木造家屋……と、日本の原風景がつまったような場所です。ほとんどが私有地の中、保全団体が 30 年以上活動を続けています。その地域で保全団体が持続してきた要因や課題、地域住民との関係を明らかにすることを目的に研究を始めました（あ、専攻は文化地理学です）。

週３・４回ほど、聞き取り調査や保全活動参加のために自転車で通い続けました。バスを使うと往復 900 円くらいかかるので、雨だろうとなるべく自転車を使いました。気温 37 度にもなる真夏日も、70 代のおじいさんたちは里山を元気に散策するので、私も必死になってついていきました。私がたくさん調査地に通ったのは、地域との関係を大切にしてきた保全団体の姿勢を見習おうと思ったからです。ほとんどが私有地の里山では、土地を貸してもらいながら活動することが前提になります。保全団体の人たちは地域住民ではなく、いわばよそ者です。地域の理解を得ようと、積極的に挨拶に行ったり話かけたりして、地域から学ぶ姿勢を大切にしてきたそうです。今回の調査ではその姿勢に習い、保全団体に密着して相互に理解し合える形にしたいと思ったのです。

お茶や花火大会に誘ってくれる地域住民の方や、気にかけてくれる保全団体メンバーの方など、調査地の皆さんに支えられて何とか書き上げることができました。

来年度からつくばを離れるのが、寂しくもなります。保全団体のおばちゃんに「ここにいつでも来られる場所にいたい。離れたくない」と言ったら「もう、うーんと遠くに行って来なさい！」と笑い飛ばされました。新しい場所でも頑張ろうと思います。

観察会にて

（人文・文化学群　比較文化学類４年　山田優芽）

5. つくばあれこれ

筑波大学卒業生向けメール・マガジンの本記事『ペデじゃーなる』は、筆者らに主題の自由を与えている。毎回執筆時期になると雇用された学生は主題をグループ LINE に提出し（しない場合もある）、それについて草稿を書き始める。草稿は執筆した学生間で共有され学生は相互に意見を出し合い、最後はまたそれぞれの筆者が書き直す、それら最終稿が合わさってメールや Web サイトに流れる記事となる。今回私は個人的なキッカケがあり、よし、いっちょ万博について書いてやろう、と、やる気満々で草稿を作った。結果、草稿は万博に始まり原発に終わる色々なことに対する批判というか悪口で埋まり、要約すれば帝国主義 Fuck Off という内容をクドクド伸ばした冗長な文章になった。ところが、そのために使われた「攻撃的」な表現が（国立）大学の「広報誌として」適切でないというもっともな指摘を同僚学生らから受け、しまった、と困り果て、いくらか書き直す必要に迫られた。

しかし書き直しの時期に磯崎憲一郎著『日本蒙昧前史』（文藝春秋）を読み 1970 年の大阪万博について書く勇気をスッカリ失った。

続いて金井美恵子著「文化的体験」（『本を書く人読まぬ人とかくこの世はままならぬ』（日本文芸社）に収録）を読み 1985 年のつくば万博についても同じく萎縮しガッカリした。

2025 年開催予定の大阪・関西万博に関しても斎藤美奈子氏の『ちくま』での連載「世の中ラボ」第 165 回「大阪万博を中止にすべき、これだけの理由」（2024 年 2 月現在『Web ちくま』でも読める。https://www.webchikuma.jp/articles/-/3415）に詳しく書いてあったので、やはり下手に書くのはマズイと止めにして情けなかった。また草稿に「帝国的歌番組」という言葉を書き付けケケケと喜んでいたら、『群像』3 月号の「小特集・蓮實重彦」に収録された「ミシェル・フーコー『The Japan Lectures』をめぐるインタビュー」を小津安二郎が「神棚も仏壇も排することで辿り着いた何もない空間こそが、文字通りの「無」にほかなりません」と読み終わる頃にはやめだやめだという気分になっていた。そして原発については本間龍著『原発プロパガンダ』（岩波書店）を読み溜め息しかつけなかった。70 年前後から「平和利用」だの「クリーン・エネルギー」だのと形を変えて今の「再稼働」に続く「原発推進」の言説を、こうも粘り強く支える思惑とは何か、と思えば、その一つはどうやら「潜在的核武装」らしい、という文章も、探せばすぐに読めるのだった（例えば山本義隆著『近代日本一五〇年』(岩波書店)）。2019 年に防衛装備庁の「軍事利用が明白な制度」に応募・採択され、科学者達から当然の抗議を受けた（軍学共同反対連絡会 , 筑波大学への要請 , http://no-military-research.jp/?p=1717）筑波大学――ところで、工学システム学類の必修単位「工学者のための倫理」はこの件に触れず、学生は議論の場における ChatGPT の使い方や、過去の技術ミス（人命に関わるレヴェルの）からいかに学んで今後に役立てるか、といった類の倫理観を教示された――の、敷地北西部にはプラズマ研究センター（プラズマ制御の研究は非核三原則の下で許される最大限の核融合の研究なのだが）があるし、少し南下すれば日本初の純国産ロケットの原寸大模型が、つくばエキスポセンターの敷地内で空に向かいピンと屹立していて、そのてっぺんによく烏が立ちエキスポセンターを見下してカアと鳴くし、更に南下すればその実物が JAXA 筑波宇宙センターにずっしりと横たわっていて、その巨体は JAXA 訪問者達の記念撮影の背景を必ず左右に貫いて

いる。

この土地の細部に軍事的な要素を見出すのは出鱈目なことではないだろう。

二十三坊はふるえている。

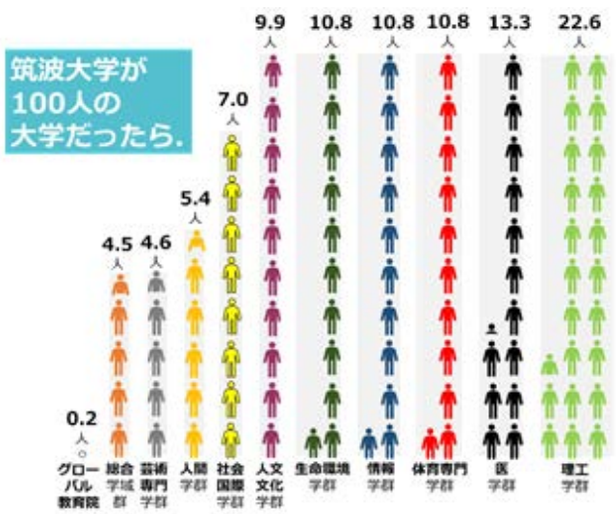
（理工学群　工学システム学類４年　野澤遼太郎）

6. 筑波大学がもしも 100 人の大学だったら
縮めてイメージする学生数と収支

2023(令和 5) 年度の時点で、筑波大学には 9635 人もの学群生が在籍しているそうです。これは一体、どのくらいの人数なのでしょうか。いまいちピンときませんね。
様々な自治体の人口 (2024 年 1 月時点) と比べてみることにしましょう。学生数とほぼ同じ人口規模の自治体としては、岐阜県八百津町 (9644 人) や山梨県身延町 (9614 人) などが挙げられます。そういわれてもピンとこないという方は、茶碗 3 杯分 (1.5 合) のご飯を想像してください。それの米粒は全部で 9700 粒程度ですので、学生の人数とおおよそ同じくらいと思われますが……。人数がここまで多いと、やはりイメージしにくいですね。

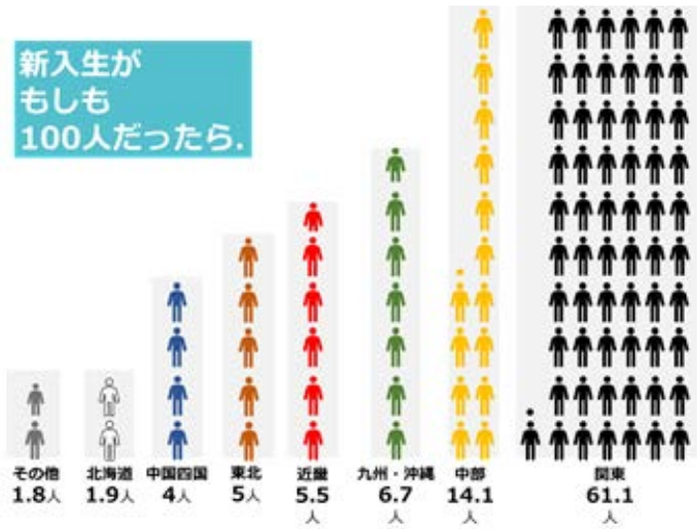
それでは 2023(令和 5) 年度の筑波大学を「学生数 100 人の大学」に縮めると、どうなるでしょう。筑波大学の現状が、理解しやすくなるかもしれません。

まずは学群別の学生数をみてみましょう。筑波大学が 100 人の大学だったら、各学群の在籍数はそれぞれどのくらいになるのでしょうか？



100 人のうち、最も多いのは理工学群（22.6 人）でした。次いで多いのは医学群の 13.3 人です。また、2021(令和 3) 年に新設された「総合学域群」の学生は 4.5 人で、これは芸術専門学群の学生数とほぼ同じでした。人数が最少となったグローバル教育院 (地球規模課題学位プログラムの学士課程のみ) は、2011(平成 23) 年に設置されました。少人数による英語での教育が行われています。

さて、2023(令和 5) 年度の筑波大学には 2135 人の学生が入学しました。これは北海道利尻町 (1912 人) や東京都檜原村 (1879 人) よりもやや多いという程度ですが……。やはり、ピンときませんね（そもそも自治体の人口と比較してピンとくる人の方が珍しい）。こちらも 100 人に縮めてしまいましょう。結果は以下の図をご覧ください。



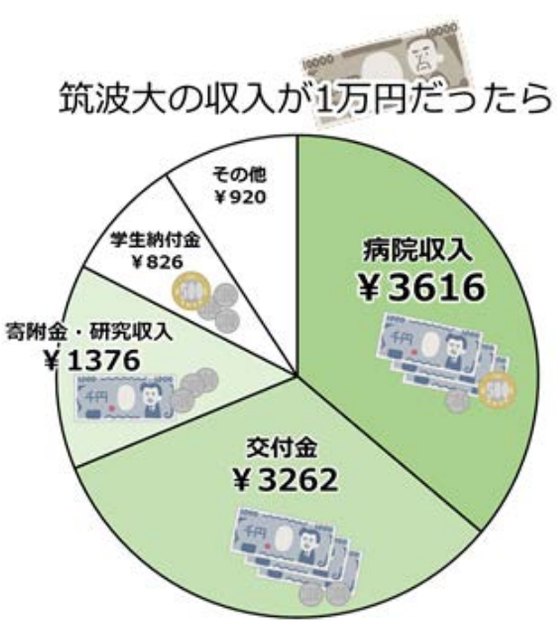
順位	都道府県(人)	100人換算(人)
1	東京(345)	16.2
2	茨城(332)	15.6
3	千葉(212)	9.9
4	埼玉(188)	8.8
5	神奈川(109)	5.1
6	愛知(81)	3.8
7	群馬(66)	3.1
8	静岡(56)	2.6
9	栃木(52)	2.4
10	長野(48)	2.2

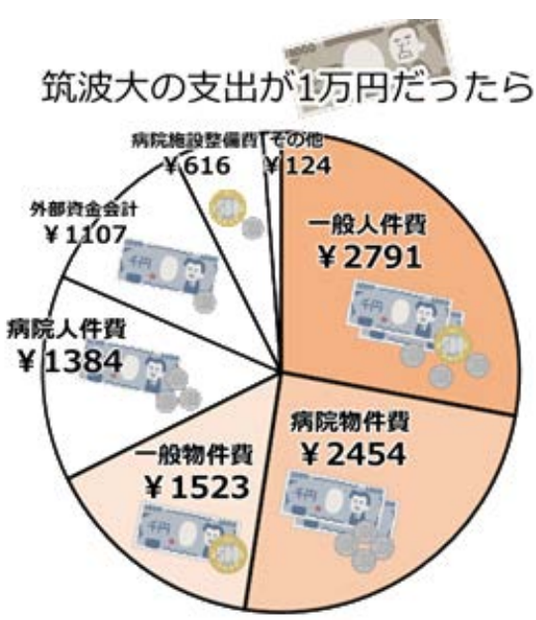
地域別にみると、2023(令和 5) 年度の入学者は関東出身者が圧倒的に多いことがわかります。都道府県別でみると、トップ 10 は表の通りです。最多は、東京都でした。新入生全体のうち、16.2％は東京都の出身であることがわかります。

学生数については、何となくご理解いただけたかと思います。ところで、筑波大学の 2023(令和 5) 年における収入は 1096 億 2000 万円でした。これは、青森県八戸市の 2022(令和 4) 年度の歳入 (1109 億 9573 万円) に匹敵する金額です。また、大谷翔平選手がドジャーズと結んだ契約金額は、およそ 1000 億円程度であると報道されています。

しかし、これもなかなかイメージしにくい莫大な金額です。こちらは、1 万円に縮めてみました。結果は以下の左の図をご覧ください。大学病院の収入と国からの交付金が、大きな割合を占めていることがわかります。また、寄附金や産学連携研究の収入も、大学を運営するための貴重な財源となっていることがうかがえます。

支出については、以下の右の図の通りです。　人件費が大きな割合を占めていることがわかります。2023(令和 5) 年時点での学群生の人数を 100 人とすると、教員・職員の人数はおよそ 56 人です。





教員一人当たりの学生数(2020)

大学名	人
東京	7.1
大阪	7.1
北海道	7.8
九州	7.8
新潟	7.9
広島	8.5
筑波	**8.7**
岡山	9
神戸	9.7
東工	10
千葉	10.6

職員数(2020)

大学名	人
東京	4,174
京都	3,678
大阪	3,541
北海道	3,241
東北	3,196
筑波	**2,884**
岡山	2,486
名古屋	2,430
神戸	2,159
千葉	1,987

九州大学の調査によると、2020(令和 2) 年における「教員一人当たりの学生数」や「職員数」は、国立大学間で比較すると左の表のようになります。
国立大学に限って考えれば、筑波大学は学生の人数に対して教員の人数が比較的多いということがうかがえます。

本年度のペデじゃーなるは、今号にて最後となります。1 年間ありがとうございました。みなさま、来年度もどうぞご愛読のほどよろしくお願いいたします。

< 参考 >

都道府県市区町村 .「全国の市 人口・面積・人口密度ランキング」. https://uub.jp/rnk/c_j.html, (2024/01/31 閲覧).
筑波大学広報局 .「地図とデータで見る筑波大学リーフレット」. 令和 5 年版 , 2023.
八戸市財政課 .「令和四年度八戸市一般会計各特別会計決算概要」,2023.
Justin Birnbaum. “ 大谷翔平、1000 億円超でドジャースと 10 年契約　MLB 史上最も稼ぐ選手に ”. ForbesJAPAN. 2023/12/11, https://forbesjapan.com/articles/detail/67889 , (2024/01/31 閲覧).
国立大学法人九州大学企画部企画課分析係・IR 室「KYUSHU UNIVERSITY FACT BOOK 2022」,2022

（人文・文化学群　人文学類 3 年　新田悠樹）

編集後記

今号のペデじゃーなるも楽しく読んでいただけたでしょうか？雑誌「JAMJAM」の内容紹介は面白かったですね～。懐かしさを感じた方もいたかもしれません。「ネクラ」をテーマに「本当に筑波は『暗い』のか？」「どこの学類が『暗い』と思いますか？」というアンケートはなかなか攻めています。JAMJAM に限らず、昔の発行物を読んでいると、今じゃできなそう（いろんな意味で）と思う企画もあり、時代の変化を感じます。このペデじゃーなるも何十年後かにひっぱり出されて「面白い」「当時の人はこんな風に考えていたんだ」なんて言ってもらえたら嬉しいなと思います。今号は他にも、学生生活やこれまでの書いた記事を振り返るものや筑波大の今年度の収支を図式化したものなど、令和 5 年度を締めくくるにふさわしい感じになったのではないでしょうか？？？
今年度もご愛読いただきありがとうございました。来年度もよろしくお願いいたします。

（人文・文化学群　比較文化学類 4 年　山田優芽）

Twitter、Facebook で筑波大学の情報を発信しています

事業開発推進室では、大学や在学生の「今」を伝えるため卒業生に向けて X（旧 Twitter）、Facebook でも情報を発信しています。

学生の様子、学内の景色や、大学の取り組みなどはもちろん、在学生・卒業生が交流できるような企画を増やしていきます。

卒業生が楽しんでいただけるお知らせやその他イベントについても告知していきますので、ぜひフォローをお願いいたします。発信してほしい情報がありましたらお知らせください。

- **筑波大学大学基金　https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/**
- **筑波大学アプリ「TSUKUBA FUTURESHIP」https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/futureship.app/**

Tsukuba Futureship（筑波大学）Facebook
https://www.facebook.com/univ.tsukuba.futureship/

TSUKUBA FUTURESHIP（筑波大学公式）X
https://twitter.com/Futureship1

編集・発行：「ペデじゃーなる」編集ワーキンググループ
デザイン・配信作業：国立大学法人筑波大学事業開発推進室
ご意見・問い合わせ先：国立大学法人筑波大学事業開発推進室
〒 305-8577 茨城県つくば市天王台１丁目１－１
TEL　029-853-2030　FAX　029-853-6576

メールマガジンの一部または全部を無断転載することを禁止します。
©2023 University of Tsukuba.

- **ペデじゃーなる」のバックナンバーはこちらから**
  ➡筑波大学メールマガジン『ペデじゃーなる』
  https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/alumni/pedeja/
- **配信先・ご住所などの変更は以下のフォームよりご登録をお願いいたします**
  ➡登録フォーム　https://forms.office.com/r/0ndsbfM04q